学位論文審査結果の要旨

令和 6 年 11 月 9 日

学位論文題目： 災害に備えた備蓄すべき OTC 医薬品データベースの検討

学位申請者　　太田友三子

審査委員　主 査　櫻田　誓

副 査　松田 佳和

副 査　村井 保之

（論文の内容の要旨）

【背景と目的】 近年、セルフメディケーションの概念が広がりを見せており、ヘルスリテラシーを向上させ、自分自身の健康管理に対する責任意識を高めることが重要とされている。特に軽い症状に対しては、OTC 医薬品（一般用医薬品）を有効に活用することが推奨されており、これにより医療機関への負担軽減と、個々の健康管理意識の向上が期待されている。災害時には、医療施設の被災や物資不足により医療供給が滞る一方で、被災者の間で健康被害が増加するため、医療供給と需要のバランスが著しく乱れる状況が多く見受けられる。そのため、被災地域において軽症の健康被害に対して適切に OTC 医薬品を活用することは、限られた医療資源を重症患者に集中させるためにも有用であると考える。本研究では、OTC 医薬品を適切に備蓄し、被災者が災害時に自身の症状に応じた医薬品を選択できるような基礎的なデータベースの作成を目指した。具体的には、平時において自分の体調や状況に適した OTC 医薬品の備蓄を支援するとともに、災害後に軽症の健康被害からくる自覚症状に基づき、備蓄した OTC 医薬品を的確に選択できるための項目を網羅すること、さらに、災害現場での活用を視野に入れたアプリケーションの試作を行うことを目的とした。

【方法】「災害用コミュニケーション支援ボード」で提唱されている自覚症状、および災害用 OTC 医薬品と医療用医薬品を参照しながら、データベースに含めるべき項目を検討した。これに基づき、Microsoft Excel VBA を用いて簡易的なアプリケーションを作成し、被災者が自分の症状や状況に応じて適切な医薬品を簡便に選択できるような仕組みを導入した。アプリケーションでは、災害時に役立つ情報を提供するために、年齢、妊娠の有無、症状と部位を選択すると、該当する災害用 OTC 医薬品がデータベースから自動的に抽出される機能を設けた。

【結果】 災害用 OTC 医薬品に対応するためのコミュニケーション支援ボードに含まれる自覚症状を選定した結果、「めまいがある」に対応する OTC 医薬品は存在しないことが判明した。また、コミュニケーション支援ボードには記載されていない「便秘」「だるさ」「嘔気・嘔吐」など、一般的な症状への対応も不足していることが確認された。さらに、「いたい」「くるしい」などの自覚症状に対しては、身体部位や具体的な症状などの追加情報が、災害用 OTC 医薬品を適切に選定するために必要であることがわかった。今回作成したデータベースを用いることで、年齢や妊娠の有無、症状、部位などの条件に応じて、適切な災害用 OTC 医薬品を抽出することができた。

【結論】 本研究により、災害時における軽症の健康被害に対応するための OTC 医薬品備蓄データベースの基

礎が構築できた。このデータベースを活用することで、災害発生時の混乱の中でも、被災者が自身の症状に適した医薬品を適切に選択できる可能性が高まった。しかし、被災者支援の現場で実際に使用されるためには、より多くの症状や利用者のニーズに応じたデータベースの拡張が求められる。被災者支援経験者の意見や過去の事例を基に、今後さらに検討を深め、より多様な状況に対応できるようなデータベデータベースの拡張が求められる。

（論文審査の結果の要旨）

本論文では、災害時に OTC 医薬品を効果的に活用するためのデータベース構築についての研究を行っている。研究の目的は、次の二点である。1）平時から個々のニーズに合った OTC 医薬品を選択し、備蓄することの有効性を探ること、および 2）災害発生後、自覚症状に基づいて備蓄した OTC 医薬品から適切なものを選び出す手法を提案することである。研究方法は、関連する先行研究を検討し、データベースに含めるべき項目を決定した上で、実際にデータベースを試作している。研究結果として、平時の OTC 医薬品の備蓄が健康被害の軽減に役立つこと、そして災害後において自覚症状に基づいた OTC 医薬品の選択が医療機関の負担を軽減することが示された。作成されたデータベースは、日常生活で容易にアクセス可能なモバイルデバイス用アプリケーションとして利用することを目指している。これにより、適切な医療資源の配分と効率的なセルフメディケーションが可能となると期待される。アプリケーションは多言語に対応し、国内外問わず災害に遭遇した人々がスムーズに利用できるような設計を目指している。今後の研究展開としては、災害時における軽度の健康被害への対応力をさらに高めるため、被災者支援経験者の意見や過去の事例を踏まえたデータベースの拡充が求められる。また、被災者が自らの備蓄医薬品を正確に選定できるかを確認するための研究が引き続き必要である。

本論文は、災害時における OTC 医薬品の有効活用に関する研究として、意義のあるものである。研究方法は明確であり、研究結果は論理的で信頼性が高い。また、研究の結論は、災害時の医療体制の改善につながる可能性がある。本研究は、今後災害が予想される本邦において、重要な課題と言える。その意味でも、今後、本研究がさらに発展することを期待している。

具体的な評価点：

・研究の目的が明確で、達成できていることが示されている。

・研究方法が適切で、研究結果を導き出すのに十分なデータが収集されている。

・研究結果が論理的で、信頼性が高い。

・研究の結論が、災害時の医療体制の改善につながる可能性がある。

改善点：

・研究結果をより具体的に示すためのデータ分析が追加されるとよい。

・研究の結論を、より具体的な政策提言につなげることが望まれる。

以上のことから、主査・副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものとして認めた。